



2022 年 6 月 4 日

森と海の自然科 樫井川河口域生きものの調査(報告)

大阪は、最高気温 29.2℃の暑い日でしたが、樫井川河口は日陰もあり風も吹き渡って、恵まれた天候でした。今年は、昨年と同じ樫井川河口域での観察・採集と同定作業のあと、アマモ場のある南側の砂浜に移動して、マテガイを主目的にしか採集と観察を行いました。

今回も山田浩二先生と児嶋格先生のご指導を受けました。

樫井川河口域はごろ石が多数転がっている磯環境で、アマモ場の浜は砂浜環境という地域差があり、生きものの種類の違いも注目して観察・採集をという児嶋先生のお話がありました。

記

日 時	2022 年 6 月 2 日 (木)
活 動	10:30 南海「岡田浦」駅集合
	11:15 樫井川河口域での採集
	12:10 観察・同定
	13:15 昼食
	13:50 アマモ場の浜での採集
	14:30 観察・同定
	15:30 15:40 現地で解散

参加者 17名 Aグループ (甲殻類)
Bグループ (二枚貝)
Cグループ (巻貝)

採集種 ①樫井川河口域

巻貝・ヒザラガイ(順不同)

ヒメケハダヒラザガイ

カラマツガイ・キクノハナガイ・ウノアシガイ・マツバガイ・ヨメガカサガイ

ウミニナ・ホソウミニナ

タマキビ・アラレタマキビ・マルウズラタマキビ・イシダタミ

シボリガイ

スカイ・イボニシ

クモリアオガイ

コモレビコガモガイ

ヒモイカリナマコツマミガイ

二枚貝(順不同)

アサリ

マガキ

コウロエンカフヒバリガイ

ケガキ

カリガネエガイ

甲殻類その他(順不同)

ヤマトカワゴカイ・ヒモイカリナマコ・イソミミズ

シロスジフジツボ・タテジマフジツボ・クロフジツボ
 カメノテ
 モクズガニ・ヤマトオサガニ・ケフサイソガニ・ヒライソガニ・タカノケフサイソガニ
 アナジャコ
 マキトラノオガニ・イソガニ・ヒメペンケイガニ
 ユビナガホンヤドカリ・ホンヤドカリ
 ユビナガスジェビ・ヨコエビ
 シラモ・オバクサ（テングサ）・アナアオサ

②アマモ場の浜（順不同）

ムギガイ・コメツブガイ
 マテガイ・バカガイ・クチバガイ・アサリ（小さいもの多数）・ホトトギスガイ
 クルマエビ・ユビナガスジェビ・セジロムラサキエビ・スジェビモドキ・ヨコエビ
 トリウミアカイソモドキ・イシガニ・ガザミ（ワタリガニ）
 ニホンスナモグリ（ボケ）
 ミズヒキゴカイ・スジホシムシモドキ・ホシムシ
 ヒメハゼ

当日の写真から(樫井川河口域)



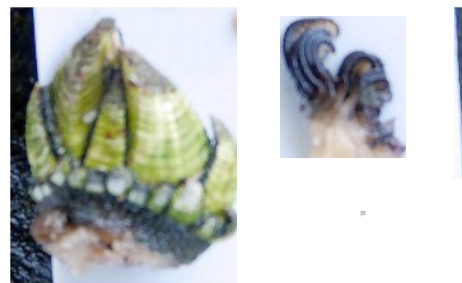
海水中で触手を伸ばすタテジマイソギンチャク
 (本体の巾 15 mm)



海水中で蔓脚蔓脚(まんきやく)を伸ばすシロスジフジツボ
 (蔓脚の長さ 7 mm)



係

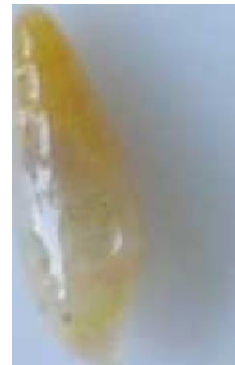


カメノテ(左)とその体内から
 取り出した蔓脚(まんきやく)(右)
 (カメノテ本体の巾 15mm)

クロフジツボから取り出した蔓脚(まんきやく)を
 復元的に取り付けた形



ヒモイカリナマコの体内のヒモイカリナマコツマミガイ
(親指の爪の先長さ 5 mm)



ヒモイカリナマコから取り出したヒモイカリナマコツマミガイ
(長さ 5 mm)

当日の写真から(アマモ場の浜)



トリウミアカイソモドキ (甲巾 3 mm・アナジャコ科・スナモグリ科の甲殻類の巣穴内に共生する)

ニホンスナモグリ(釣りエサとしては「ぼけ」と呼ばれる)

当日確認できた *Homo sapiens* L.(ホモサピエンス)たち

